

報 告 書

開催日時	平成 27 年 11 月 4 日（水）午後 2 時 00 分 ～ 3 時 30 分	
開催場所	岩手県立高田病院 2 階会議室	
出席議員	挨拶 及川 修一	
	司会進行	鵜浦 昌也
	報告者	鵜浦 昌也
	記録者	蒲生 哲
	議員	丹野 紀雄、菅野 稔（欠席：大坪涼子）
参加人数	3 人（県立高田病院 田畑潔院長、千田了事務局長、熊谷眞貴子総看護師長） 議会事務局 2 人、記者 3 人	
主な要望・提言等	<p>1. 新しい高田病院の移転に伴い基本設計を詰めている段階。土地の確保が済んでないこともあって具体的なイメージはできていない。</p> <p>2. 震災後、米崎コミセンで翌日から仮設の診療所を開設した。日赤のスタッフの協力をもらいながら 4 カ月ほど診療し、2012 年から全国初の仮設の病棟を 40 床建設し診療にあたった。</p> <p>3. 常勤医は、支援を受けながら多い時で 9 人。現在は 6 人（震災前と同様）で対応している。</p> <p>4. 病院自体は累積で 50 億円の赤字を抱えている。平均外来患者は一日平均 180 人前後で、職員数は 80 人。</p> <p>5. 診療していて、うつ病が増えてきているように感じる。</p> <p>6. 現在「トータルケア回診」を行っている。スタッフ全員が一体となって回診し、リハビリを行って早く在宅で療養できるよう取り組んでいる。入院リハビリにも力を入れている。</p> <p>7. 訪問診療を行っていきたいが、180 名の外来患者を受け入れなければならないが、スタッフ不足は否めない。市内は広く、移動時間にとられる。</p> <p>8. 「ほっとつばきシステム」を取り入れている。陸前高田市の高齢化率は 35%ほどと高く、病気になりそうな患者に登録してもらい、1 泊でも入院して容態を見る体制を整えている。</p> <p>9. 各コミセンを通じて出前健康講座を行っている。年間 20 カ所ほどで行い、今後は災害公営住宅にも出向いて講座を広めていきたい。</p>	

地域全体で健康づくりを進めていきたい。

10. 本年から高校生向けの講演会を高田高校で行っている。食生活や生活習慣病の予防知識、スマホの使い過ぎの講演を行っている。

11. 若者に高田へ帰ってきてもらいたいと思い、3年前から医療系の学校に行っている学生たちを集め、病院スタッフと一緒に懇談するなど、学生の不安を取り除く「サマーミーティング」を行っている。

12. 高田病院は、地域医療と住民の健康を守ることを使命感に取り組んでいる。

13. 人口減少に伴って高齢者も減っている。しかし、高齢者の比率は高い。

14. 気仙地方は医療資源が乏しい。

15. 高度医療は盛岡周辺の病院、急性期医療は大船渡病院、高田病院は回復期を担う方向性にある。

16. 若者が帰ってこられるよう、小児科の医療体制も整えていかなければならない。

17. 高田地区では2007年から「地域連携パス」に取り組んでおり、医療機関と医療福祉介護機関とで情報を共有している。

18. ICTを利用するなど、情報共有を実現するための活動を行って医療体制を整えていく。

19. 医師会が中心となって病院、薬局、検査機関、行政機関、特老とも情報共有できるネットワークを作っている。

20. 高田病院は高台5へ建設予定で、隣に市の保健福祉総合センターが建設される。病院は60床8診療科で、平成29年度に建設される見込み。市保健福祉総合センターの完成はそれより1年程度遅れる見込みであるが、両施設の連携を密にする取組みを進めてほしい。

21. 病院と保健福祉センター間の道路を安全、安心に歩けるよう考慮してほしい。

22. 高田病院が行っている講演会の参加者が増えるよう、市とも協議しながら進めていきたい。

23. 高田病院内への売店設置について、60床ぐらいの病院では一般業者の経営が成り立ちにくいと聞いている。授産施設に参加してもらうように働きかけている。

24. 薬局については市で準備しているとのこと。

25. 駐車場は90台分のスペースがあり十分と思う。

26. 医療、介護系の人材確保に取り組んでほしい。病院では、気仙

	出身者の医療従事者を目指す若者を対象とした「サマーミーティング」を開催し、本年の参加者は10名程度。七夕の頃が集まりやすいと思うので、今後も引き続き続けていきたい。市とも協働で人材確保の取組みを進めたい。
--	--

議会広聴広報特別委員会

広聴小委員会小委員長 藤 倉 泰 治 様

平成27年12月4日

陸前高田市議会議会報告会開催要綱第10条第1項の規定により提出します。

平成27年議会報告会 教民班

班 長 大 坪 涼 子 ㊞